

girl scouts

ガールスカウトやまなし

No.6　　2016年3月







ホップ、ステップ、ジャンプで！

連盟長　佐藤　秀子



２０２０年には、日本にガールスカウト運動の種が蒔かれて１００年を迎えます。東京オリンピック開催年でもあります。それまで約４年、“減少してきた会員を一人ひとりの努力で４万人に戻す取り組みを、試行錯誤で実施しましょう”とガールスカウト日本連盟会長より強いメッセージが発信されました。

人育てが、急務となっている日本の現状の中、スカウティングはその解決に有効な手段で充分に力を発揮でき、社会貢献になると確信しています。

ガールスカウト運動は、人育て、自分育てに有効な運動であり、創始者ご夫妻が懸命に努力され、共感した世界中の人々がアクションを起こし、日本でも女子補導団といわれていた時代から、女子力のある女性たちの力で全国各地に普及していきました。そして１００年を迎えようとしている今、日本の社会状況は変化を見せ、会員の減少という状況に陥っています。異年齢でパトロールシステムを生かし、体験を通して育ちに繋がる活動の魅力が、会員減少という事象により失われています。しかし、よい運動であるという信念があるなら、もう一歩努力して下さい。

“ガールスカウトっていいなぁ・・・なんとすばらしい活動だろう”と実感できる何かを仲間と共に見つけて欲しい。若い女性と人生経験豊富な女性が共に手を携えて、考えていることや夢を語り合い、意見をぶつけながら、思いを深めて欲しい。

この運動が、日本にとって、山梨県にとって絶対的に必要であると確信し、それぞれが、それぞれに出来ることを考え、ガールスカウトらしくプラス思考で、楽しく、明るく、ホップ　ステップ　ジャンプ！



発団５０周年を迎えて

ガールスカウト山梨県第３団　団委員長　渡邊　とし江

初代団委員長の「将来、社会の大きな担い手となるべき少女たちの人格形成にふさわしい運動である」との考えのもとに１９６６年３月に河口湖の地に発団して５０年が経ちました。会員一人ひとりの参加と協力、私たちガールスカウトの活動をサポートし続けてくださっている支援者の皆さまのお力添えを得て、ここまで歩んでくることができましたことに心より感謝申し上げます。

発団以来続けられている河口湖畔周辺の環境活動は形態を変えながら続けてきましたが、毎年８月６日の河口湖湖上祭の翌日の早朝の清掃は、眠そうな顔をしながら作業を始めたスカウトが、いきいきとした笑顔に変わって「きれいになったねー」「気持いいねー」は、５０年間変わらずに引き継がれています。また、毎年１１月の最終日曜日に開催される富士山マラソン（日刊スポーツマラソンから通算４０回）のフルマラソンゴールでは、湖の上を渡ってくる冷たい風にさらされ、体が芯まで冷える中「完走、おめでとうございます」「お疲れさまでした」と、笑顔で記念品を手渡してランナーの方たちにたいへん喜ばれたり、おほめの言葉をいただいたりしています。今年度は記念事業の一環として戸隠ガールスカウトセンターにおいて団キャンプを実施しました。シニアスカウトを中心とした暖炉を囲んでのお楽しみ会は、年少スカウトの心に残り、良い目標となり、スカウト精神の培いに繋げられたと確信しています。



今後もますます地域に密着しながら、少女と女性の視点に立ってリーダーシップを発揮できる人材の育成に努めていきたいと思います。

南関東ギャザリング ～私たちの軌跡～

19 団　中村 朱里　　4 団　山見 多可子

10 月 10 日～12 日の 3 日間、千葉県の手賀の丘少年自然の家で行われた南関東ギャザリングに参加しました。

テーマ：　girls worldwide say “一緒にならこの世界を変えられる”
サブテーマ：　～小さな幸せ大きな平和～
分科会テーマ：
①教育はすべての少女と少年の未来への扉を開く
②少女が力をつければ、世界を変えられる
③一緒になら子どもたちの命を救える
④私たちはエイズ・マラリアなどの病気の広がりを止められる



私たちは、「②少女が力をつければ、世界を変えられる」のテーマで話し合いをし、企画を立てました。

基調講演では、ラジオパーソナリティや「まるごみ JAPAN」の代表として活動している、KOUSAKU さんにお話をしていただきました。「まるごみ JAPAN」とはまるごとゴミ拾いの略で、 日本中の人が一斉にゴミ拾いをすれば一気に日本からゴミがなくなるという発想から「楽しくゴミ拾い」をコンセプトに作られたものです。
KOUSAKU さんから「自分を信じること」「心の壁を取り払って人と向き合うこと」「失敗をおそれないこと」など、このギャザリングの大きなヒントとなる強い言葉をいただきました。



２日目のアジア・太平洋リーダー会議参加リーダーによるアクティビティでは、グループでの話し合いを通してガールスカウト活動やガールスカウトに対してのスカウトの姿勢を見つめ直すことができました。
また、その夜のポイントラリーで行った「MAYA ちゃん」では、素敵なリーダーになるためにはどんな技術や力が必要かというのを考え、人形に書きました。

19 団　レンジャー　中村 朱里

私たちのパトロールは、山梨県連盟ギャザリングでテーマとなったデート DV についての企画を立てました。
企画の内容は Jr～Rr の年代の人たちに向けて、ゲーム形式の講座を開くというものです。デート DV のことをより多くの人に知ってもらい、防ぐことを目的とし

4 団　シニア　山見 多可子

私たちのパトロールはガールスカウトを広めるために、
①団の伝統や雰囲気が伝わるポスターをスカウトの手で作る。
②ガールスカウト自体の紹介をすることができるポスターを作る。
これでガールスカウトを広めて仲間を増やすことが、

私たちはこのギャザリングを通して、テーマについてはもちろん、これからの人生やガールスカウトの活動など、たくさんのことを考えました。ギャザリングではたくさんの県外の友だちもできます。また、多くのことを得ることができます。今回は 2 人だけの参加でしたが、次回からはもっと山梨から参加する人が増えて、県のガールスカウトを盛り上げることにつながればいいと思います。（編集責任　担当リーダー　4 団　大澤　瑞穂）

団活動報告

1団



7月18日～20日　朝霧野外活動センター
設立55周年記念キャンプ

2団

スカウトの歓声と笑顔が溢れる







冬キャンプ
〝冬のきらめく宝さがし
～高遠の森で〟

3団





デイキャンプ

ブラウニーキャンプに向けて
カンガルートーストとフルーツポンチを作りました。

4団



みんなで作ったおやつ
っておいしいね！



Greener ×GreenerⅡジャガイモの
種植え作業のあと、ドラム缶と青
竹を使ってバームクーヘンを焼き
ました。

6団





平安神宮

9団

４０周年記念研修旅行
京都・彦根城



彦ひゃんに会えた！

10団

４０周年記念研修旅行
平和宣言





星砂海岸☆彡
星砂が見つかった？

沖縄平和記念公園にて平和集会を行う

12団

毎年６月に恒例となった田植え



苗の持ち方から教えて
頂き、みんなで一列に
なり歩調を合わせて



身軽なテンダーフット
は田んぼの中をぴょん
ぴょん♪苗配りに活躍

13団

富士屋ホテルにて
テーブル
マナー教室



ナイフとフォークの使い方の
指導を真剣に見つめています。

15団

全国一斉イベント　ガールスカウト活動のＰＲ
市内の公園でロープワーク技術や樹木に聴診器をあてて（表紙）





17団



テーブルマナーを学びながらのランチ会
ホテルの方から丁寧に説明を受け
上手に美味しく

18団

集会見学者に七つ道具を説明
〝ふ～ん、おもしろいねっ〟



郡内合同クリスマス会担当団でした。



19団



金川の森体験フェスタ参加





豆ひめやくもの巣などのクラフトを行い
たくさんの友達が遊びに来てくれました。

海っこ塾への参加



今回、“海のない山梨において「海の日」の関心を高めることで、子供達に海を身近に感じて貰うこと”を目的に、日本財団・国土交通省関東運輸局・JTB 関東主催で『海っこ塾』が開催されました。ジュニア、シニアが対象になり、７月２６日から２７日までの１泊２日の日程で、スカウト 62 名、リーダー4 名の計 66 名が参加しました。カヤック体験や横浜港クルージング、本格的なロープワーク等、山梨県では体験できないようなプログラムが組まれており、大盛り上がりの二日間でした。

終了後の 7 月 30 日には、『初代飛鳥』のチーフパーサー藤田萬世氏との交流会にも参加し、盛り沢山のプログラムが終了しました。　　教育活動委員会　国際部会担当理事　山見実子（４団）

ブラウニーキャンプ



８月２２日から２３日まで、県立愛宕山少年自然の家で、「広げよう輪！輪！輪！」のテーマのもと、スカウト４０名、リーダー１６名が参加し、ブラウニーキャンプが開催されました。仲間作りゲーム・パトロール作りから始まったキャンプ。できたよパートⅠ,Ⅱ,Ⅲでは、スカウト技術・名札・フォトフレーム作りを体験し、できたよシールをもらうことに喜びを感じていたようでした。夜のキャンドルファイヤーでは、白いドレスを着た愛宕山の美しい女神様を迎え、幻想的に始まり、ろうそくに照らされたスカウト達の顔は何故か大人びて見えました。二日目も、ミステリーツアー、カートンドッグ作りと色々な体験をしました。

二日間のキャンプを通してパトロールシステムを学び、仲間作りができたスカウト達の顔は、自信に満ちあふれており、実りあるキャンプであったと思うことができました。

教育活動委員会　ブラウニーキャンプ担当リーダー　佐藤ひとみ(10 団)

Sr.Jr.Rr.のつどい



平成 28 年 2 月 6 日（土）～7 日（日）県立青少年センターで、Jr.Sr.Rr.のつどいが開催されました。テーマは「自信を持てるスカウトになろう～歌だ！ロープだ！ファイヤーだ！～」です。アイスブレーキングで自分たちが理想とするスカウト像を大きな紙に記入。そして規律訓練、基本的な旗の扱い、竹を使ったロープ技術、ガールスカウトソングと、ローテーションでパトロールごとに練習していけるようプログラムが組まれていました。キャンプファイヤーではパトロールでスタンツを発表。熱心に練習した成果がどのパトロールにも出ていました。閉会式で、「自信が持てるようになった人は手を挙げて！」と言われた時、何と全員の手が上がりました。このように、意識しないで自分たちの理想の姿に近づかせるという仕掛けは、若い実行委員リーダーらによるものです。キャンプファイヤーで見せたヤングリーダーらのエネルギーと熱意も伝わってきて、充実した Jr.Sr.Rr.のつどいとなりました。

Jr.Sr.Rr のつどい担当トレイナー　丸山久美子（４団）

ガールスカウト山梨県連盟４０周年記念　ＷＯＲＬＤ　ＴＨＩＮＫＩＮＧ　ＤＡＹ　２０１６　～つながる～



２月２０日（土）大月市民会館に山梨県内のガールスカウト２０３名が集いシンキングディが開催されました。団旗入場で開会となり、先ず海野聖子講師の「いのちの話」を聞きました。私達女性は命をつなげる役目をしているので自分を大切にしなくてはいけない・・・という話を参加者全員、真剣に受け止めました。

その後のシンキングディ物語、シンキングディファンド、東北の今、ハンドゲーム、ソングと式典は感動と感謝と楽しさの内に閉会となりました。

シンキングディ実行委員長　田辺　まつえ（６団）

海っこ　　ホームページより抜粋









足の開き具合が気になるかな～

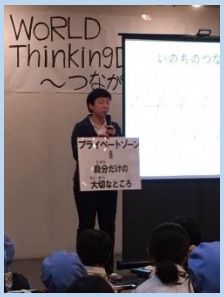
ブラウニーキャンプ　　ホームページより抜粋





シンキング　　新藤さん提供より抜粋







☆東北研修を終えて思うこと　　星野豊子（６団）

宮城県第１９団との交流の様子



東北研修のテーマは「被災地から学び、私達の備えへ」です。被災地の視察で防災に対する数々のノウハウを学ぶことができました。参加者の感想文集の中でも「自分で考え行動する」「自分の命は自分で守る」「そなえよつねにの精神を生かすこと」等を挙げておられます。一言で云うと「自分の命は自分で守る。そして生きる力を」このことに尽きるのではないでしょうか。そこで、その備えとして**「ガールスカウトキャンプで災害時に生きる力を備えよう!!」**を提案します。ガールスカウトのキャンプ技術の中には、その技術を生かせば災害時に役立つスキルが沢山あります。例えばマッチ１本でも火おこし、ロープ結び、テント張り、救急法、牛乳パック料理、段ボール利用などサバイバル時の応用までこれらの技術を繰り返し練習し完全に身につけることができれば自分の命を守るだけでなく避難所生活の中でも率先してリーダーになれ持てる技術や知識を提供することができ役立つことができると思います。こうしてキャンプの技術は災害時に大きな生きる力となるのです。

今こそガールスカウトキャンプで楽しみながら命を守る生きる力を身につけましょう!!

☆国中リーダースクラブ（６月）



「キャンプファイヤーで活用できる技術を習得し、スカウト活動に生かすことができる」を目標に実施しました。まず、カラートーチの説明を受け、使用する薬品によって炎の色が変わることを学び、実際に火をつけると赤やオレンジ、緑、青とそれぞれ違った色で燃え参加者から歓声が上がりました。実習ではパトロールごとに色を決めカラーキャンドルを作りましたが、固まる時間の早いところ、遅いところとあり「なぜ固まらないのー?」と頭をひねりながら和気あいあいと作業しました。他に絵の具を溶かしたカラフルな色水にフローティングキャンドルを使う方法も学びました。模擬ファイヤーでは、パトロールの代表がそれぞれ作ったキャンドルに点火するたびに美しい色の炎が上がりどよめきが起こりました。ハンドゲームやスカウツオンも行い、実際のキャンプファイヤーですぐに活用できる内容でとても良かったとたいへん好評でした。　　**担当団　依田宣子（１３団）**

☆郡内リーダースクラブ（１２月）



郡内リーダースクラブ(3.6.10.15.18 団)合同クリスマス会を、“都留市まちづくり交流センター”に於いて開催いたしました。会場には“アナと雪の女王”の BGM が流れ、リーダーはサンタになったり、サンタグッズを身につけたり、クリスマスムード満載。参加者はスカウト６５名、リーダー３６名と大人数となりました。

星野豊子リーダーの「クリスマスのお話」を皮切りに、いよいよ本日のメインである“スカウト劇場”です。各団それぞれ工夫し、練習し、考えて来てくれました。内容の素晴らしさに、まだまだ続きを見たそうなスカウト達。終わりがもったいないような会場の雰囲気でした。あっと言う間の楽しいクリスマス会！サンタさんからの贈り物を手に閉会とさせていただきました。今回は各団から２名の実行委員を選出し、実行委員会を開催。郡内リーダースの皆さんの結束力とご協力があったからこそ成功へと導かれました。**担当団　中島文子（１８団）**

☆県リーダースクラブ



県リーダースクラブの事業として「一足先に春を感じる」と題して、酒折にある不老園で梅の花を観賞しました。当日は前夜からの悪天候の影響でスケジュールを変更しましたが、午後からは天候も回復し、白やピンクに咲き誇った梅園内を散策しました。また、担当リーダーからフエルトを使った梅の花のクラフトを教えていただき、春を感じることができたようです。短い時間でしたがリーダー同志の親睦も深まり、情報交換もでき有意義な時間を過ごすことができました。“リーダースクラブは参加することに意義がある！参加して本当に良かった！！”という嬉しい言葉も聞こえ、担当リーダー一同胸をなでおろしました。　　**県リーダースクラブ会長　坂本洋子（１団）**

輝くガールスカウト OG

小田切暁子（１団 SCAPP）



世界に出る、ということはスカウトである私にとってはとても身近なものでした。スカウト活動を始めた時からの夢であった「ワールドセンターへの派遣」は、13 年前の夏にメキシコにあるアワカバニャへ行くことで叶いました。アワカバニャでは他国のスカウト・ガイドとの交流や、メキシコの孤児院の子どもたちとのふれあいを通じて世界にはまだまだ私の知らないこと、知らなければならないことが沢山あるということを痛感しました。

私は現在、客室乗務員として世界中を飛び回り、様々な人と接しています。そこには常に新しい出会いや発見で溢れていて、勉強の日々です。自分と異なる文化の人と関わることは決して容易なことではありませんが、アワカバニャでの経験やスカウト活動を通して学んだ、分かち合い助け合うことの大切さ、人と関わることの楽しさが糧となり、私の基盤となっています。

渡辺千津子（６団 SCAPP）



私は小学２年生で入団して以来ずっと山梨第６団で活動してきました。スカウト時代はもとより、リーダーになってから国際的組織であるＧＳ活動の醍醐味を味わえる体験をたくさんさせていただきました。海外派遣の引率としてオーストリアに行かせていただいたこと。インド、サンガムでの成人会員プログラムでは「平和のカギを握るのは女性」について各国のリーダーたちと語り合いそれぞれができることを身の回りから始めようと誓い別れました。ピースパックプロジェクトでパキスタンを訪れた際には私たちも危険と隣り合わせだったこと。そして今もその状態が世界の中では続いていることについて自分の子供や子供の学校で話す機会もありました。私は日本にいながら出来る国際協力としてフェアトレードと地雷撤去のキャンペーンブックの紹介に力を入れてまいりました。現在は２人の男児の子育てと自営業の事務に奔走中で活動から遠ざかっておりますが、そんな中でもＧＳ活動によって得られた珠玉の思い出とともに、それを見守っていただいた多くの方々に感謝しつつ“生きる力”を育むＧＳ活動の今後益々の発展を心より祈っております。

稲葉美鈴（９団リーダー）



私は 9 団創設時のメンバーです。5 年前に長女が入団したのを機に保護者としてリーダーとして再び関わっています。10 団の発団式に代表として出席しブラウニー物語を歌い語ったこと、野外活動のノウハウや生活の知恵を学んだこと、習ったソングはよく覚えています。今のように自らプランして実行することは少なかったようですが、集団行動を経験することは、社会で生きるための大きな礎になりました。私は韮崎の中学校を卒業後、単身、国立音楽大学附属高校へ進学し 3 年間寮生活をしました。精神的な自立を早い時期にできたことは、その後のスキルアップや地域社会での自分のあり方を確立するのに大いに役立ちました。現在は、音大で学んだことと２０代に経験した会社勤めやＹＢＳレポーターの経験をもとに、ピアノ、歌、大正琴教室、演奏活動、ピアノバーの経営、司会業をしています。また、2006 年に（社）韮崎青年会議所理事長を務め、その前後 20 年間は地域の様々な活動に携わっています。すでに人生の後半に突入していますので、また次のステージで新たな経験、価値観や機会に出あえることを楽しみにしながら日々精進を目指しています。

編集後記

このメンバーになってから2回目の広報発行ですが、いよいよ本調子になりました(*^_^*)
これからもスカウトからリーダーまで、喜んで読んでいただける広報誌を目指して、部員一同“頑張ります！”（F）

ガールスカウト山梨県連盟

〒400－0811　甲府市川田町517
山梨県立青少年センター内
TEL・Fax　055－228－6637
E-mail：gs-ymnsi@eps1.comlink.ne.jp
（火・木　PM1：30～4：30　但し、月、祭日の翌日は休業）